

妊婦さん・子どものいるご家庭のみなさまへ

タバコ（受動喫煙）が子どもに与える影響

妊娠中の喫煙

切迫流産・低出生体重児
胎児発育遅延(酸素や栄養が不足)

中耳炎
う歯（むし歯）



知能低下

(妊娠中の喫煙本数が多いほど知能指数が低くなる傾向があるとされています)

喘息・痰・息切れ

発育の遅れ

乳幼児突然死症候群（SIDS）

※成長期の子どもがタバコの煙にさらされると、大人になってがんになる可能性が高くなります。

喫煙の影響

二次喫煙

second-hand-smoke
受動喫煙

タバコの先から出る煙はフィルターを通らないため、喫煙者より、さらに有害です。
換気扇の下やベランダで吸ったとしても煙は流れます。



三次喫煙

third-hand-smoke
残留受動喫煙

タバコの煙に含まれるニコチンなどの化学物質は、壁やカーテン、衣服などに付着し、煙が消えた後も有害物質として放出され続けます。
衣服や物、吐く息にタバコのおいが残っているということは、有害物質も残っているということです。

一次喫煙

first-hand-smoke
能動喫煙

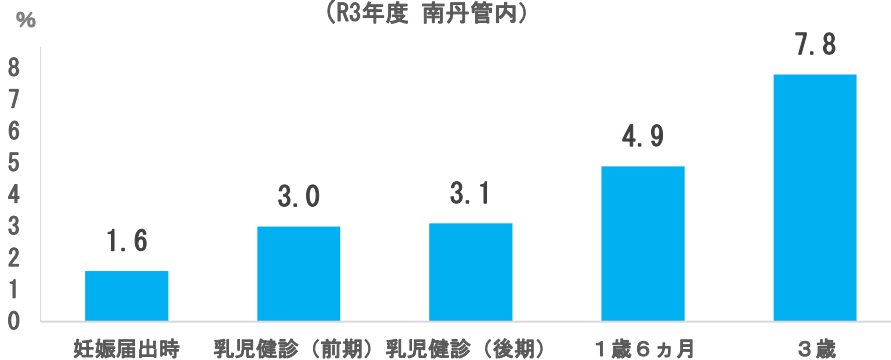
タバコを吸っている本人への影響です。
一般的な影響：全身のがん/慢性閉塞性肺疾患/心筋梗塞/喘息
脳卒中/歯周病 など
妊娠中の喫煙は、胎盤を通して赤ちゃんにも有害物質が届きます。

子どもが乗る車内では、絶対にタバコを吸ってはいけません。
子どもが乗ってなくても、有害物質は長時間残ります。



乳幼児健診等における母の喫煙率

(R3年度 南丹管内)



妊娠中、産後しばらく禁煙を頑張っていたお母さんも、子どもが大きくなるにつれ再喫煙してしまう現状があります。また、3歳児の父親の喫煙率は、約34%と高い状況にあります。

子どもの誤飲事故
第1位はタバコです



新型タバコもタバコです
加熱式タバコからも
ニコチンや有害物質が出ています

禁煙したい方！

南丹保健所のホームページ、
知って得するタバコの話
禁煙外来編 をご覧下さい。

詳しくは
こちら→

